「防犯カメラは怖くない」

株式会社アボアエンジニアリング　代表取締役　高木　栄次

世界中で新型コロナウィルス感染拡大防止に伴い、不安な日々を過ごされている方もいる中、寄稿のご依頼を頂き大変緊張しております。

縁あってNPO法人広島県生活安全防犯協会の理事をさせて頂いたこと、地方の防犯協会に所属できたことは大変有意義だと思っています。単なる防犯機器販売業者ではなく、諸先輩方からのアドバイスや広島県警察との情報交換は、防犯設備士としてのモノの見方に直結します。また総合防犯設備士への志を持ったのも、協会のおかげです。

本日は、その一部をご紹介したいと思います。

最近では防犯カメラで撮影された映像が消えたころに、実際に犯行する手口があるようです。関心してしまいます…本当に犯罪企画者は一生懸命システムの穴を見つけて実行に移します。ゴルフ場での事件では、犯行手口は、まず貴重品ロッカーの暗証番号入力部を、盗み見。あるいは小型カメラで暗証番号を盗み取る。被害者となるプレイヤーは当然コースへ。犯罪企画者は入手した暗証番号でロッカーを開け、財布から現金には手を付けず、カード情報と個人情報の写メを撮り、そのままロッカーへ戻します。犯罪企画者は防犯カメラに映ることが前提ですが、何も盗っていないためその場では犯罪が成立しない（様に見えます）。その防犯カメラの録画データが消えてしまうほど放置し、盗み取った情報でカード詐欺を行います。そして、カードの暗証番号と、ロッカーの暗証番号を同一にしている人が被害者となってしまうのです。被害者はどこでカード情報を盗まれたのか分からないため、なかなか足が付きません。

貴重品ロッカーこそ、誕生日や連番にしたほうが良いのですが、そもそも毎回違う暗証番号なんて覚えてられません。今日の日付…等の工夫も良いですが、その前に暗証番号を入力するシチュエーションがあるなら、思いもよらないようなカメラが仕掛けてあるかもしれないという目で、挑まなければならなくなりました。便利なんだか不便なんだか…。

防犯カメラ設置工事をしていると「嫌ねぇ…監視カメラだわ!」と声がかけられます。「この監視カメラはどこでみてるの?」「誰が見てるの?さぼれないわね…」等など(笑)

監視社会の到来だのなんだのと騒ぎますが、日常的に防犯カメラの映像を何人もの警備員がジーっと見続ける施設はさほどありません。実際のところ何もない日常を監視し続けるほど暇な人間はいないのです（常時監視が必要な用途を除く）。しかし、目に見える形の防犯カメラだけではなく、見えない形で日々の行動を監視されていることに気が付いているのでしょうか?

政府の意向でキャッシュレス化が急激に進む中、○○Payやカード決済など、誰が何時、何を買ったのか。年齢や性別が収集されていることに、消費者はどの位の人が気付いているのでしょうか。購入履歴だけではありません。パソコンを使う人ならば、メールの中身を読みとり、お勧めの商材の広告が表示されるようになりました。

Amazonなどでは、購入履歴から興味を持ちそうな本まで推薦してくれます。自販機は、性別と年齢を判断し、お勧めの飲み物を提案するようになりました。デジタルサイネージは看板に足を止めて何人の人が広告を見ているのかを集計するようになっています。スマートフォンを持ち歩いて買い物をすれば、立ち寄ったお店はどんな雰囲気だったか?お勧めの料理はあるのか?車椅子対応の駐車場はあるのか?と聞いてくるし、自宅や職場の場所がどこで、通勤するなら渋滞しているかどうかの案内までしてくれます。これらは一見便利な機能である様に思えますが、すべて利用者のメール内容や行

動・購入履歴等の情報を吸い取り、判断・提案しているに過ぎません。買い物履歴や、行動パターンを読み取ることで、趣味や性格、性癖まで見通せてしまうでしょう。

日本に設置されている防犯カメラは、人権や肖像権に配慮し、様々な規制の中で運用しています。少し前の技術力で、この規制がなければ指名手配犯なんてスグに検挙できるし、万引き犯リストをデータベース化すれば、入店前にアラートを出すことはとても容易いのです。

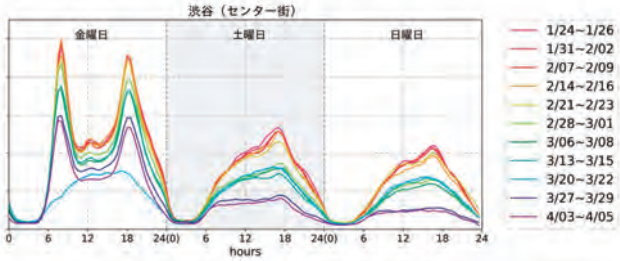
しかし、このスマホや○○Payが利用するであろうBigDATAはもっとタチが悪いものです。毎年のように、企業からカードの個人情報が流失したとニュースになっています。カード番号や年齢性別だけでないこのBigDATAが流出しない可能性がゼロではないのに。

スマホアプリなど、便利なものを使用する際に、小さく読みにくい文字で記載のある質問に対し、意味も分からないし、皆がやっているからという理由で「はい」「はい」「YES」で回答し、便利な機能を享受しています。その時に許可した事なんて記憶から消えたころに、「はい」で答えてしまった個人データ、どこで、どんなことに使われてしまうのでしょうか。流出したらトコトン追い詰められてしまう危険性があるという点は、前述の個人情報泥棒の手口と一部共通しています(笑)

便利なサービスと付き合っていかないといけませんね。

新型コロナウィルスのニュースで外出制限の要請後、日本の大都市圏ではスマートフォンの位置情報を使い、移動人口の推移が減った、増えたと報道しているのを目にする事が多くなりました。スマートフォンを持ち歩くため、各個人位置は既に把握されている事が分かります。

◇土日が急激に人口が減った渋谷センター街のグラフ



https://about.yahoo.co.jp/info/blog/20200407/bigdata.html

中国では新型コロナウィルス対策として、感染者と位置情報を紐づけ、健康状態を把握するシステムが実際に稼働しています。感染者との接触者も分かるため、公共交通機関の利用制限も可能となります。コンピューターウィルスが猛威を振るった平成から、本物のウィルスによって人間が「デジタル監視」される時代になったといえるでしょう。プライバシーは無くなり、差別すらされかねない社会になる危険性をはらんでいます。

どうせなら、保菌者という差別をするよりも、抗体保持者の区別をしたほうが、疑心暗鬼にならないで社会経済もうまく回るような気がします。

◇新型コロナ感染者の接近

WeChat アプリの新型コロナウイルス関連の特設サイト

感染状況ビッグデータ　地域の感染者マップ　感染者が利用した公共交通機関の検索

（出所）テンセントWeChatアプリの画面

https://www.nri.com/jp/keyword/proposal/20200326

「泥棒に入られても、何も取るものないさ!」と、答えるお客さんも多くいます。しかし「実際に侵入盗に入られると、何が盗られたか分からない」から始まり、無かったものまで盗られたように感じます。いつまでも悔しい・悲しいという感情と付き合わなければならない、この時間はもったいないと思います。そして盗られたものは殆どの場合、返却されず、訴訟するにもお金と時間がかかり、怒りの矛先が誰にも向けられない事になります。

同じように、第三者に購入履歴や日常の行動範囲、性格まである程度把握されることの方がプライバシー侵害であることも含めて、防犯カメラよりも恐怖を感じてほしいと思います。